



## 平成21年3月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

## 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	39,733,248 万円	100.0%	101.5%(100.5%)	37,328,929 万円	96.9%( 95.4%)
食 料 品	32,621,513 万円	82.1%(83.3%)	102.5%(101.6%)	30,699,222 万円	98.3%( 97.2%)
農 産	4,611,720 万円	11.6%(11.7%)	101.1%(103.4%)	4,369,257 万円	97.0%( 99.1%)
水 産	3,410,464 万円	8.6%( 8.6%)	97.8%( 97.2%)	3,241,953 万円	93.9%( 93.1%)
畜 産	3,684,894 万円	9.3%( 9.6%)	102.2%( 99.1%)	3,480,201 万円	97.8%( 94.8%)
惣 菜	3,205,715 万円	8.1%( 8.1%)	100.4%(101.6%)	3,012,352 万円	96.0%( 96.8%)
日配食品	7,334,201 万円	18.5%(18.7%)	103.9%(102.2%)	6,868,427 万円	99.7%( 97.9%)
加工食品	10,374,519 万円	26.1%(26.5%)	104.5%(102.9%)	9,727,032 万円	100.4%( 98.2%)
生活関連	2,973,336 万円	7.5%( 7.4%)	98.4%( 95.6%)	2,818,181 万円	94.4%( 92.2%)
衣 料 品	1,601,620 万円	4.0%( 3.7%)	92.8%( 90.0%)	1,486,635 万円	87.9%( 85.1%)
そ の 他	2,536,779 万円	6.4%( 5.6%)	98.8%( 98.3%)	2,324,891 万円	89.0%( 83.8%)

## 数 値

全店総売上高	39,733,248 万円	店 舗 数	3,696 店舗
総売場面積	6,519,735.9 m <sup>2</sup>	総従業員数	194,183 人

店舗平均月商	10,750.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,876.1 円(95.2%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.1 万円( 5.6 万円)	平均店舗面積	1,764.0 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.1 万円(18.6 万円)	パート比率(前月)	74.5%(74.7%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ ひなまつり、ホワイトデー、お彼岸、行楽とマーケットの多い月であったが、寒暖差や消費の冷え込みの影響が大きく全体的に厳しい状況が続いた
- ・ 低価格で必要な物を必要な分だけというニーズが高まり、特に衣料品、生活関連品が苦戦となった
- ・ 大手の値下げ報道にあわせ、各社共に価格攻勢が加速した

## 商品動向

### 農産

- ・ 野菜については、天候要因や相場高によりサラダ野菜、葉物野菜の動きが悪く、また春物野菜も相場高の影響を受け、春キャベツ、新たまねぎ、新じゃがいもが不調であった
- ・ 果物については、バナナやいよかん、ポンカンなどの柑橘系は好調であったが、いちご、りんごは不調であった

### 水産

- ・ 中旬以降も気温が上がらず、生魚の入荷不安定もあり、切身、刺身、お造りが月間を通して苦戦した。瀬戸内海のイカナゴも不漁のため、昨年の売り上げを確保出来ない状況であった
- ・ ブリ、鯛など養殖魚が安値安定で入荷し好調であった
- ・ アサリ、ホタルイカが好調であった

### 畜産

- ・ 牛肉は、週末中心に焼肉商材が好調であったが、和牛、高級部位の不振の流れは変わらず厳しい結果となった
- ・ 料理の汎用性がある豚肉、鶏肉は堅調な売れ行きとなった
- ・ ハム、ベーコンが好調であった

## 惣菜

- ・ 花見や行楽需要で、弁当・丼物・おにぎりが好調となるも、巻き寿司、握り寿司は苦戦となった
- ・ バラ売りのフライ、天ぷらが好調であった。特に1点あたりの価格が低いコロケが好調
- ・ 高価格帯商品の動きが鈍い

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品においては、前月に続き冷凍食品、餃子の動きが好調、牛乳、ヨーグルト、アイスなどのデザート関連も好調に推移した
- ・ 加工食品では、飲料、ビール類、弁当商材、調味料、カップ麺が好調であった。また、ひなまつり・花見関連商品は好調も、ホワイトデーは需要が減少した

## その他

～ひなまつりの動向について～

- ・ はまぐりは、国内産、中国産共に、昨年より好調であった
- ・ 景気低迷の影響からか、大型サイズの寿司、刺身、オードブルは不調であったが、手巻き寿司セット、ちらし寿司、少品目のオードブルは好調であった
- ・ 雛あられ、桜餅、うぐいす餅などの和菓子は好調であった。また、洋菓子のひなまつり用ケーキも好調であった

～ホワイトデーの動向について～

- ・ バレンタインデーの「義理チョコ」系の売り上げが減少したこともあり、ホワイトデー関連も比例して不調
- ・ 「大人需要」ではなく「子供需要」のキャラクター系商品が好調であった
- ・ 500円前後のチョコレート、ビスケット、キャンディーは好調であったが、高価格のホテル系商品は不調であった
- ・ ホワイトデーに絞った商品よりも、自己消費用の銘店菓子、チョコレート、ビスケットが好調であった

～お彼岸の動向について～

- ・ おはぎの動きが良く、3～4個入りのパックが好調であった
- ・ 寿司は、少量サイズの動きが良かった。刺身は、盛り合わせよりも単品のお造り、割安感のある3点セットの短冊などが好調であった
- ・ 和花が好調で、特に500円前後の商品の売れ行きが良かった

以上